

令和 8 年 度 学 校 経 営 計 画

1 学校教育目標

(1) 教 育 目 標

より高きを目指す「尚美」の精神に根ざし、豊かな教養を身に付けさせ、ものづくりを通して新しい時代の創造を担う、自主自律の気風に富んだ健康でたくましい人材の育成を目指す。

(2) 教 育 方 針

- ア. 学力を充実させ技術の練磨を図る。
- イ. 公正な判断力を身に付けさせるとともに社会性を育成する。
- ウ. 礼節を重んじ、心身を鍛える。
- エ. 勤労意欲と責任感の涵養を図る。
- オ. 豊かな感性を育むとともに個性を伸ばし、創造性の育成を図る。

2 学校の特徴

本校は、平成22年4月より二上工業高校と統合し工業系5学科、芸術系2学科を持つ工業系専門高校として、より高きを求める「尚美」の精神のもと、ものづくり・作品づくりを通して生徒の人格陶冶と自己実現を旨とする教育活動の実践を目指している。一人一人の生徒が、普通教育と専門教育の調和と深化を図ることによって、知性を磨き、部活動をはじめとする特別活動を通して人間性や体力の育成に努め、健全な精神と創造性豊かな感性をもって社会に貢献する人材となるよう指導し支援している。

また、「青井中学生美術展」や地域のイベントに参加するなど、ものづくりの交流を通して地域との連携を深めるとともに、新実習棟の全面完成を契機とし、総合的な工業科高校としての「ものづくりの中核校」、「地域のものづくりの拠点」となるよう魅力ある学校づくりに努めている。

3 学校の現状と課題

人間性豊かで、ものづくりのスペシャリストとしての工業人の育成を目指す本校の教育活動は、学力向上のための学習指導、高校生として「けじめ」ある行動・態度がとれる生徒指導、望ましい職業観を身に付ける進路指導、生徒会活動や部活動等の特別活動指導などの核となる活動の調和をとり、相乗的な効果が上がるように努めている。

しかし、進路に対する明確な目標を見出せない生徒が少数ながら出てきているのが現状である。このような状況を鑑み、将来に対する目標を明確にさせ、その達成に向け、学校生活を意欲的かつ継続的に取り組ませることが課題であり、以下の取組みを推し進めていく。

- ・総合的な工業科高校として、「ものづくりの中核校」となるよう、地域産業界や大学、研究機関等との連携を深めた学習活動を実践し、将来のものづくりのスペシャリストとなる工業人の育成を目指す。
- ・互見授業や生徒による授業評価の実施により授業の改善に努め、学習意欲を引き出す指導方法や評価、学力向上のための学習時間確保の対策等を検討する。
- ・各学科では、1年次において、学科横断の「ものづくり学」を実施するとともに、各学科の特性を生かして専門性の深化を図り、2年次からのコース制や専門技術者等による授業等を実施し、魅力ある工業教育の展開を目指す。
- ・「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究、授業改善を通して、工夫した分かりやすい授業実践を推進する。
- ・学校と家庭との連携を図り、高校生としての節度ある行動・態度がとれる人格形成を目指した生徒指導を推進する。
- ・ほとんどの生徒が部に所属（兼部含む）しており、部の活躍や活動の勢いが学校の活性化に大きく貢献している。また、学校行事に対しても多くの生徒が積極的に取り組んでおり、生徒が主体的に活躍できる環境づくりに努める。
- ・2年生全員によるインターンシップの実施により、早期からの望ましい勤労観・職業観を育成するとともに、生徒の多様な進路希望が実現できる進路指導を推進する。

4 学 校 教 育 計 画

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
1	学習活動	目標	- 主体的に学習するとともに、専門知識・技能の習得に励み、工業人としての基礎を確立する。 - 検定や資格取得に挑戦し、各種コンテスト・コンクール等へ意欲的に参加する。 - 普通教科と各専門学科との連携により、家庭学習の習慣化を推進する。
	重点 1 ① 重点 1 ②	計画	<u>基礎力診断テストを実施し、生徒の学力の分析を進め、各教科間の連携を図り、工業科の生徒として必要な基礎学力の充実に努める。</u> 基礎力診断テストの結果を分析し、学習に対する姿勢を振り返る時間を設け、自ら学ぶ意欲の向上につなげる。 - 生徒の家庭学習時間を増やす工夫を行う。 タブレット端末を使用したデジタルドリルなど、手軽に取り組める教材を活用し、家庭学習の時間が増えるようにする。また授業の課題や資格試験を利用し、家で勉強する、課題をする時間を増やす。 <u>公開授業の実施と授業見学・互見授業を実施する。担当授業を年2回以上公開する。また、他の教員の授業を年2回以上見学し、授業内容の改善に努める。</u>
2	学校生活	目標	- 携帯・タブレットなどの普及に伴い、生徒を取り巻く環境には事件、事故、いじめなど多くの危険が潜んでおり、生徒がトラブルに巻き込まれることのないように努める。 - 登下校の交通事故を未然に防ぐために、「交通安全教室」を開催したり、常に命の大切さを伝えたりし、正しいモラル、マナーを伝え、生徒自らが危機管理の意識を高める。 - 意欲的かつ主体的な学校生活を送るための基本的な生活習慣を確立し、調和のとれた規則正しい生活ができる。 - 登校指導や日常の生活指導を通して「けじめ」ある行動・態度と高校生らしい服装やマナーを身に付ける。
	重点 2 ① 重点 2 ②	計画	<u>SNSの複雑化にともない、生徒がトラブルに巻き込まれないように教育委員会と連絡を密にし、生徒の危機意識を高める。</u> - 常に情報収集を行い、生徒の危機管理能力の向上に努める。 <u>自転車事故の発生地点の生徒への周知や自転車点検や交通安全教室の実施を通して、安全な登下校の意識を高め、交通事故の減少を図る。</u> - 担任や学科、部顧問との連携を密にした面接指導を充実し、遅刻者の減少を図る。 - 生徒が主体的に行動できるような生徒指導を推進し、適切な行動、清潔感のある服装の定着を図る。 - 定期健康診断等の結果や生徒保健委員会の活動を通して、健康に関する情報を発信し、健康保持のための自己管理を促す。
3	進路支援	目標	- 生徒が、自らの勤労観・職業観に基づいて、主体的な進路選択ができる能力を育てる。 - 進路選択を通じて、主体的な自己実現を図る。 - インターンシップの充実、推進を図り、生徒一人一人のキャリアアップを実現し、進路選択時のミスマッチを低減する。
	重点 3 ① 重点 3 ②	計画	<u>生徒の自己理解と学習能力の伸長を図り、礼儀ある行動を身に付け、社会人としてのあり方、生き方を自覚し、将来の生活設計ができる職業観を養う。</u> - 工学系進学者を対象とした「基礎学力講座」等の特別指導を実施する。芸術系進学者の学力補充に対しては外部講師・土曜学習を通じ進路指導を早期から実施できるシステムを構築する。 <u>適性検査の実施や、面接指導を充実させ、進路について考える機会を多く設定し、専門に関係する就職・進学割合を高くする。</u>

4	特別活動	目標	・部活動加入率 85 %以上を堅持するとともに退部する生徒数 40 名以内を目標とし、部活動と学習との両立を図る。 ・各学校行事終了後、評価の調査を行い、満足度 85 %以上を目指す。 ・読書を推奨する活動を充実させ、図書館利用のマナーを培うとともに、読書への関心・意欲を高め、主体的な読書習慣の定着を図る。
	重点4 ① 重点4 ②	計画	・<u>定着化する学校行事や活発な部活動について、生徒へのアンケートを実施し、その満足度や充実感を調査し、分析を行う。</u> ・生徒会が中心となり、各行事に対する生徒への事前アンケートを実施して、生徒の意見の把握に努め、諸活動及び生徒会の活性化に努める。 ・集会や生徒会による広報活動を通して、大会日程や成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒の士気を高める。 ・<u>部顧問間の連携や家庭との連携を密にし、活動しやすい状況の設定に努めるとともに、部活動を継続する意欲を支援する体制作りに努める。</u> ・教職員間の体制を検証し、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・読書に対する広報活動を拡充し、図書館利用の充実と読書率(図書貸出し数)の向上を図る。 ・2学期末に全校一斉の朝読書週間の実施や教養講座(年2回)などの開催により、全生徒が本に親しむ機会を設定する。 ・国語科との連携やビブリオバトルの実施により、図書館を活用した授業の展開や読書を促す指導を推進する。 ・図書館だよりを発刊し(年6回)、推薦図書、新着図書の紹介等、読書に関する広報活動の充実を図る。
5	その他	目標	・家庭と学校が連携を強め、共通理解の下に活発なPTA活動を目指す。 ・開かれた学校づくりに努め、地域との連携・交流を推進し、地域の方々より学校運営等について意見を聞く。
	重点5 ①②	計画	・PTA執行部会を定期的に開催し、情報共有及び各計画の検討 ・PTA各行事の再検討(新たな事業展開) ・PTA各委員会毎の活動再検討(新たな活動計画)